

保健所向け「eDOTS 飲みきるミカタ」の使用手引き(簡易版)

1. 導入時の基本説明

- 使用同意の確認→ 個人情報・動画提出の扱いがあるため
- 患者自身の服薬記録のためのツールである→ 患者の自己管理を尊重するため
- 保健所との連絡→副作用・中断リスクに迅速に対応、治療完遂を支援するため

2. 初期設定

保健所側 (初回のみ)

- 保健所共通(eDOTS に使用可能)のメールアドレスを準備し患者リスト表を作成
(基本的に保健所で eDOTS 一括管理を推奨、担当者個人のアドレスは使用しない)

患者が行う設定 (スマホ等)

① 患者端末の設定

- メールアドレス登録
- パスワード設定
- 初回ログイン

保健所が行う設定

② 患者端末の設定

患者スマホ上で「設定の変更」を行う (患者、保健所との共同作業が望ましい)

- 結核の種類、その他の疾患の登録 (
- 患者のニックネーム・メールアドレス登録の確認
- 保健所メールアドレス (小文字での入力)
- 保健所が服薬記録可能 にチェックを入れると服日数調整が可能となる。

保健所の管理画面での設定

③ 服薬記録の編集の設定

- 服薬日数管理
- 治療薬設定
- DOTS 頻度の設定
- 写真・動画提出 ON/OFF

※ 各設定方法は別添パワーポイント「保健所で行う設定について」参照

eDOTS での服薬管理のポイント

結核治療は決められた日数の継続的に服薬をすることである。(180日・270日等)

患者と保健所は、服薬日数を目標に服薬支援を行うことが重要。

- eDOTS では、正確な服薬日数は円グラフで示される

服薬日数が正しく計算される条件

- 治療薬設定が正しい
- 患者が毎日「飲んだ／今日は飲まなくてよい」を選択
- 特殊ケース (SM 隔日投与・透析で EB の隔日服用、MDR-TB など) の場合の正しい選択 (□今日は飲まなくてよいを選択)
- 入院等で院内 DOTS を実施した場合には服薬日数調整する。

保健所側で日数に含めない設定が必要なケース

- 減感作治療中：減感作中は1日に加算されないため設定が必要となる
保健所の管理場面から対象患者の治療薬設定を変更する。
□全量より少ない を選択する。これにより患者が□飲んだ をチェックしても日数として加算されない(△と表示される)。
- 副作用で薬の量が変わった場合 (患者に交流欄へ記録を依頼)

カレンダー表示の意味

記号	意味	服薬日数への換算	主な状況
○	正常に服薬 医学的に服薬不要	加算される	「飲んだ」を選択 「飲まなくてよい日」を選択 EB 隔日、SM 隔日、MDR-TB など
△	設定と異なる服薬	加算されない	治療薬設定と違う薬量・種類で「飲んだ」を選択した場合、減感作中で保健所が「全量より少ない」を選択した場合
×	記録なし	加算されない	患者が何も入力しなかった日

○は (今日は飲まなくてよい) は“正しい服薬”として扱う

△は“飲んでいても日数に入らない”ため、特に減感作した場合患者への説明が必要

×は“入力漏れ”の可能性があるので、確認が必要

4. 副作用対応の流れ

副作用は服薬開始 2 週間から 1 ヶ月に出現する頻度が高いこと、服薬中断のリスクとなることから、患者へ副作用出現時の報告と保健所の迅速な対応を徹底する。

患者側

- カレンダーにチェック
- 症状は交流欄に記載

保健所側

- 対象者リストの未読メッセージの毎日確認
- 必要に応じて電話・医療機関への受診調整
- 最初の 1 ヶ月は DOTS 頻度の「毎日報告」を推奨

5. VOT (写真・動画提出) の設定

質の高い DOTS の導入のため以下の条件の患者への適応を考慮する

- ① 中断リスクが高い患者
 - ② 服薬開始直後の継続性確認
 - ③ 過去に中断歴がある患者
 - 保健所側の「設定変更」で ON にする
- データの保存期間は、1 ヶ月です。

6. DOTS 頻度の設定

「患者から保健所への報告頻度を設定し、服薬状況を適切に把握するための機能です」

DOTS 頻度設定は“毎日以外でもメッセージは届きます。

毎日／週ごと／月ごとなど

- 副作用が出やすい最初の 1 ヶ月は毎日を推奨
- 毎日以外を選択しても交流欄からのメッセージは、保健所リスト表へ表示されるため毎日の確認が必要。